

## 「肱川流域委員会」 設立主旨

肱川は、上中流部には宇和、野村、大洲の各盆地が開け、下流部では兩岸に山脚が迫る狭隘な地形で平地が少ないという全国でも珍しい流域を形成している河川です。その地形的特性等から治水対策が難しく、たびたび洪水による浸水被害を被ってきました。これまでも鹿野川ダム、野村ダムの建設や激甚災害対策等の治水事業を行ってきましたが、未だ治水安全度は1 / 15と低い状況にあります。また、近年、肱川の水量は低下傾向、生活排水等により水質は悪化傾向にあり、貴重な自然環境を提供している河川空間の保全とともに、かつてのような豊富で清冽な流れの復活が望まれています。

こうした中、肱川の河川整備のあり方に関連し山鳥坂ダムの建設の是非について様々な意見が出されてきました。中予分水の可否も含め、平成13年、14年と関係市町村や流域の方々とは60回にも及ぶ説明会や住民アンケートの実施など流域の方々との大きな議論を経たのち、平成14年7月、肱川の今後の整備の方向性について、中予分水を除外した上で、戦後最大流量に対する安全の確保と清流の復活を目指すこととする再構築計画案として整理されました。

今般、肱川水系河川整備基本方針の決定を受けて、四国地方整備局及び愛媛県は、肱川の整備にかかるこれまでの議論の経緯を踏まえて、今後20～30年間の肱川の整備内容を具体化する河川整備計画を検討することとしました。このため、河川整備に関する専門的知識を有する学識経験者や地域整備に携わってこられた流域自治体関係者の方々から意見を聴くことを目的として「肱川流域委員会」を設立します。